

来場者 5 万人突破！ 蜷川実花 with EiM が手がける「KYOTO NIPPON FESTIVAL」
北野天満宮を舞台に鮮烈な色彩と時空が交錯し、物語に“入り込む”

DAZZLE と送るイマーシブ公演「花宵の大茶会」 3月20日開幕
ナレーションは津田健次郎さん、北野天満宮にゆかりのある登場人物も一挙公開
イマーシブ公演限定グッズも販売決定！

2026年3月20日（祝・金）～5月24日（日）北野天満宮 風月殿にて開催



全国天満宮総本社・北野天満宮を舞台に蜷川実花 with EiM が手がける「KYOTO NIPPON FESTIVAL 2026 -時をこえ、華ひらく庭-」を2026年2月1日（日）～5月24日（日）まで開催しております。「KYOTO NIPPON FESTIVAL」は、2016年に誕生し、日本の「美」と「文化」を京都から世界に発信してきたフェスティバルで、2026年に10周年を迎えるにあたり、アーティスト蜷川実花と大阪・関西万博テーマ事業プロデューサーもつとめた宮田裕章をはじめ、各分野のスペシャリストが集うクリエイティブチーム EiM が参画。

2月1日（日）より開催しているアートインスタレーションでは、梅苑の木々に吊り下げられた約1,200本のクリスタルが、季節と光の変化とともに異なる表情を見せる屋外アートインスタレーション、梅苑「花の庭」《光と花の庭》と、咲き誇る花々と、落ち、萎れ、種へと変わっていく花々という、対照的な二つの表情を茶室の内部に共存させた《残照》という2つの作品がご覧いただけます。本フェスティバルでは梅の見頃を迎え、開催から約1か月で5万人の来場者を迎えるなど、多くの方々にお越しいただいております。

3月20日（祝・金）からは、いよいよダンスカンパニーDAZZLE と蜷川実花 with EiM によるイマーシブ公演が開幕いたします（特設サイト：<https://hanayoi-no-daichakai.com/>）。これだけ長い歴史を持つ建物でのイマーシブ公演は日本初で、蜷川実花 with EiM による舞台美術と DAZZLE のパフォーマンスが、空間の歴史性と呼应しながら立体的に展開いたします。四百年前、北野天満宮で豊臣秀吉によって開かれた伝説の茶会——その“幻の二日目”が復活し、北野天満宮にゆかりのある登場人物が時空を超えて集結します。鑑賞者は自らの足で会場である風月殿内を歩きながら、セリフなしで紡がれる物語と間近での身体表現の熱量を、五感を通して感じることができます。物語へ誘うナレーションは、津田健次郎さんが担当し、北野天満宮の KYOTO NIPPON FESTIVAL オリジナルグッズ販売所ではイマーシブ公演にちなんだ限定グッズも販売いたします。

日本初・数百年の歴史空間で実現するイマーシブ公演に、DAZZLE×蛭川実花 with EiM が挑む 極彩色の茶会に足を踏み入れ、誰も知らない歴史を体験する 風月殿 イマーシブ公演《花宵の大茶会》

世界的に活躍するダンスカンパニーDAZZLE と、蛭川実花 with EiM のコラボレーションによる、物語に入り込むアート体験です。北野天満宮の風月殿を舞台に、蛭川実花 with EiM が手がける作品世界の中で、DAZZLE によるパフォーマンスが繰り広げられる“イマーシブ公演”です。

“イマーシブ公演”とは、観客が客席に座るのではなく、演者と同じ空間に入り込み、物語の登場人物として体験する演劇のことで、物語の空間には決まった客席やステージがなく、空間全体が舞台となります。2000年代にロンドンで始まり、2010年代にニューヨークを中心に世界的なブームを巻き起こしたイマーシブ公演は、日本でも徐々に広がりを見せています。その中で、ダンスカンパニーDAZZLE は日本における先駆的存在として、このジャンルの発展を牽引してきました。



今回の作品は、日本のアートシーンに新たな潮流を生み出してきた映画監督・蛭川実花が、イマーシブ公演という新たな領域に挑む意欲的な試みです。また、本作は国内におけるこのジャンルの“メジャー化”を目指す取り組みでもあります。クリエイティブチーム EiM が舞台美術を手がけるだけでなく、宮田裕章がコンセプトメイキング、蛭川実花と共に脚本から DAZZLE と開発。さらに、演劇のために作られた舞台ではなく、歴史そのものが息づく北野天満宮という特別な空間で上演することで、来場者はこの地に流れ続ける悠久の歴史に想いを馳せながら、従来の演劇とも展覧会とも異なる、ここでしか出会えない新しい体験へと誘われます。

公演はセリフがないノンバーバルの形式で、舞台となる北野天満宮のゆかりある登場人物らが時を超えて集い、伝説の茶会の“幻の二日目”として始まります。風月殿の各部屋は蛭川実花 with EiM によって、それぞれの人物を象徴した空間として彩られています。縦横無尽に行われるパフォーマンスを追いかける、あるいは場内を自分の意志で彷徨い歩く中で物語は進んでいき、まるで映画の世界に入ったかのような体験ができます。本作品を通して、鑑賞者は作品を“観る側”であるだけでなく、“物語の登場人物として参加する側”へと移行します。そして物語へ没入すると同時に、時空を超えた登場人物たちと歴史的空間で出会うことによって、歴史という大いなる時の流れにも没入していくという、二重の没入体験を味わいます。空間・作品・パフォーマンス、そして鑑賞者が交差することで生まれる唯一無二の感動は、その場に立ち会った人だけが記憶に留めることのできる、新しい没入感のある観劇体験へと導きます。

■風月殿 イマーシブ公演《花宵の大茶会》あらすじ

四百年前、ここ北野天満宮で、豊臣秀吉によって開かれた伝説の茶会。大名も庶民も分け隔てなく茶を楽しんだ前代未聞の宴は、たった一夜で幕を閉じた。今宵『花宵の大茶会』としてよみがえるのは、歴史には存在しなかったはずの“幻の二日目”。来場者はその特別な宴に招かれた客人となり、声なき物語を目撃する。

そこに現れるのは、嫉妬や傲慢、後悔といった――誰の心にもひそむ影。その気配は、どこか歴史に名を刻んだ人物を思わせる。

花と光が揺らぎ合う、夢くも美しい茶席。影の者たちと、ひとつの席を囲むとき、来場者は物語とともに息づき、現実と幻想の境が静かに滲みはじめるだろう。

そして、彼らの葛藤に観る者の心が重なったとき、その体験は自身の物語へと変わる。終演後、余韻の中で本殿へと手を合わせる――その静かな時間までが、この物語である。



風月殿 イマーシブ公演《 花宵の大茶会 》登場人物

傲慢（豊臣秀吉の影）

黄金をまとい頂点に立った茶会の主。四百年前に主催した北野大茶会では「誰もが参加できる場」を目指すも、自らの権威の執着が垣根をつくり失敗した。仲間と笑い合った真の集いの幻を今も追う。



嫉妬（紫式部の影）

鋭敏すぎる感性を持つ藤色の客。世界の美しさに気づくゆえに、自らの心の影を呪い、他者と比べることで世界を暗闇に染めてしまう。その鋭いまなざしは、今や自らを追い詰める「呪縛」となっている。



虚無（清少納言の影）

敬愛する主である中宮定子を失い、世界の色を失った薄桜の客。定子の打掛を抱きしめ、現実を見ることなく過去の幻影を追う。埋まらぬ喪失の深淵で、透明な亡霊のように立ち尽くす。



偽り（出雲阿国の影）

抑圧された時代の中、自らを守るための「仮面」をまとった真紅の客。喝采と嘲笑の間で幾重にも嘘を重ね、虚構の自分を演じ続けるうちに、いつしか自らの本質さえも見失いそうになる。



疑念（土方歳三の影）

理想を貫くため、冷徹な番人として疑いの刃で律してきた浅葱の客。守るべき象徴を失い、疑念は自らを孤立させる影に変貌した。誠をどこに置くべきか、葛藤の中に佇む。



羞恥（藤原時平の影）

謀略で頂点に立ちながら、罪の重さに押し潰される墨黒の客。陥れた道真の影に怯え、自らの醜悪な行いに苛まれる。栄華を極めたその身は今、逃げ場のない後悔と羞恥の底へ沈んでいる。



梅の祈り人（菅原道真の気配）

北野天満宮に宿る清らかな気配。絶望にあっても呪わず、慈しみと詩の心を貫いたその精神は、この茶会においてもすべての人に春が訪れることを願う。静かな祈りの象徴として在る。



風の案内人

本茶会の案内人。道真の孤独を理解し、影たちの情念をあるがままに受け入れる。舞台に清らかな風を通し、余白を埋めるその所作は、物語を輝かせるための洗練された呼吸である。



ナレーション 津田 健次郎



声優・俳優。大阪府出身。6月11日生まれ。

声優として『遊☆戯☆王デュエルモンスターズシリーズ』、『テニスの王子様』、『ゴールデンカムイ』、『呪術廻戦』、『チェンソーマン』ほか多数のアニメ作品、『スターウォーズ』シリーズなどの洋画吹替え、多ジャンルのナレーションを担当。

第15回声優アワード主演男優賞、第53回ベストドレッサー賞の芸能部門を受賞。

またドラマ『最愛』や連続テレビ小説『あんぱん』、大河ドラマ『べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～』、日曜劇場『ザ・ロイヤルファミリー』、『ラムネモンキー』、映画『恋愛裁判』ほか、俳優としても広く活躍している。

イマーシブ公演限定グッズ

会場内特設グッズショップでは、会場でしか手に入らない「KYOTO NIPPON FESTIVAL」のオリジナルアイテムなど、グッズを複数販売しております。イマーシブ公演の公開に合わせ、さらにイマーシブ公演限定のグッズも販売いたします。オリジナルのクリアファイルだけではなく、それぞれの登場人物をイメージしたステッカー、缶バッジ、トートバッグ、マルチケースを販売いたします。誰も体験したことのない、イマーシブ公演の体験の余韻をぜひお家でもお楽しみください。

花宵の大茶会

DAZZLE× 蜷川実花 with EiM

OFFICIAL GOODS

 <p>ステッカー 9種 各 ¥650 tax-in</p>	 <p>缶バッジ 9種 各 ¥500 tax-in</p>	 <p>トートバッグ 7種 各 ¥2,900 tax-in</p>
 <p>マルチケース 9種 各 ¥1,650 tax-in</p>	 <p>クリアファイル ¥500 tax-in</p>	

※画像はイメージです。実際の商品と仕様・色相等が異なる場合がございます。※数量には限りがございます。予めご了承ください。

クリエイティブチーム EiM

写真家・映画監督現代美術家の蜷川実花と、科学者・エグゼクティブディレクターの宮田裕章、プロダクションデザイナーの ENZO、クリエイティブディレクターの桑名功、照明監督の上野甲子朗、音楽プロデューサー 剣持学人、テクニカルアートディレクターの上田晋也、ディレクターの澤田雅之、映像ディレクターの ZUMI、コミュニケーションデザイナー 吉柳さおり、映像ディレクターの名児耶洋らで結成されたクリエイティブチ

ーム。プロジェクトごとに多様なチームを編成しながら活動する。

主な作品発表に、「胡蝶の旅 Embracing Lights」(安比Art Project、2022年)、蜷川実花「残照 / Eternity in a Moment」(小山登美夫ギャラリー前橋、2023年)、「蜷川実花展 Eternity in a Moment 輝きの中の永遠」(TOKYO NODE、2023年-2024年)、「蜷川実花展 with EiM: 儚くも煌めく境界」(弘前れんが倉庫美術館 2024年)、「深淵に宿る彼岸の夢」(森の芸術祭 晴れの国・岡山 満奇洞 2024年)、「蜷川実花展 with EiM: 光の中で影と踊る」(南城美術館、2024年)、「蜷川実花展 with EiM: 彼岸の光、此岸の影」(京都市京セラ美術館、2025年)など。

■蜷川 実花 Mika NINAGAWA / 写真家・映画監督・現代美術家



写真を中心として、映画、映像、空間インスタレーションも多く手掛ける。クリエイティブチーム「EiM (エイム)」の一員としても活動中。

木村伊兵衛写真賞ほか数々受賞。2010年ニューヨークのRizzoliから写真集を出版。また、『ヘルタースケルター』(2012年)、『Diner ダイナー』(2019年)をはじめ長編映画を5作、Netflix オリジナルドラマ『FOLLOWERS』(2020年)を監督。

これまでに写真集 120冊以上を刊行、個展 150回以上、グループ展 130回以上と国内外で精力的に作品発表を続ける個展「蜷川実花展 : Eternity in a Moment 瞬きの中の永遠」(TOKYO NODE 2023年12月-2024年2月)にて25万人を動員、続く「蜷川実花展 with EiM: 彼岸の光、此岸の影」(京都市京セラ美術館、2025年1月-3月)でも、25万人を動員。最新の写真集に『VIRA』(bookshop M Co., Ltd.、2026年)、『mirror, mirror, mirror』(afumi inc.、2026年)がある。

■宮田 裕章 Hiroaki MIYATA / 科学者・エグゼクティブディレクター



慶應義塾大学医学部教授。データサイエンスを基盤に、医療・政策・社会設計など多様な領域を横断しながら、人と社会の未来を描く科学者として活動。科学の知性と感性の表現をつなぐ実践を通じて、多様な領域と共創を行っている。クリエイティブチーム Eternity in a Moment(EiM)ではエグゼクティブディレクターとして活動。

2025年に開催された日本国際博覧会では、テーマ事業プロデューサーを務め better co-being パビリオンを構築。アーティストとして「共鳴の空」、宮田裕章 with EiM として「最大多様の最大幸福」という作品を展示した。

2026年開校予定の Co-innovation University では学長として全体構想を担い、建築家・藤本壮介とともにキャンパスデザインを監修。その活動の根底には、「多様な存在が響き合いながら未来を共に創る」という理念——Better Co-being のビジョンが一貫して息づいている。

DAZZLE



1996年結成のダンスカンパニー。ストリートダンスとコンテポラリーダンスを融合したダンススタイルで、独創性に富んだ作品が特徴。2017年以降、イマーシブシアターを次々と発表。

関西・大阪万博(EXPO2025)にも出演。

- ・2025年9月5日 OSAKA JAPAN SDGs Forum (SDGs 全国フォーラム 2025) オープニングステージ
- ・2025年10月7~8日「DANCE DRAMA "Breakthrough Journey"」。

北野天満宮



北野天満宮は、菅原道真公（菅公）を御祭神としておまつりする全国約1万2000社の天満宮・天神社の総本社です。古来「北野の天神さま」と親しまれ、入試合格・学業成就・文化芸能・災難厄除祈願のお社として幅広く信仰されています。

KYOTO NIPPON FESTIVAL 2026 -時をこえ、華ひらく庭- 概要

・会期：

インスタレーション《光と花の庭》《残照》

—2026年2月1日(日)～5月24日(日) ※休苑日有

イマーシブシアター《花宵の大茶会》

—2026年3月20日(金祝)予定～5月24日(日) ※休演日有

—公演時間：約70分予定

・開苑時間：09:00開場／20:30閉門（20:00最終受付）

・休館日：会期中休業日あり(HPにてお知らせ)

・会場：北野天満宮（〒602-8386 京都府京都市上京区馬喰町）

・主催：KYOTO NIPPON FESTIVAL実行委員会／京都新聞社／北野天満宮

・協賛：株式会社JTB／株式会社イープラス

・後援：京都府／公益社団法人京都府観光連盟／京都市／

公益社団法人京都市観光協会／

公益財団法人京都伝統伎芸振興財団（おおきに財団）

・協力：FM802／FM COCOLO

・機材協力：SONY

・公式サイト：<https://kyoto-nippon-festival.com/>

・SNS：公式X：<https://x.com/kyotonipponfes>

公式Instagram：<https://www.instagram.com/kyotonipponfes/>

『#KNF2026』

・問い合わせ先：contact@kyoto-nippon-festival.com



チケット

前売りチケットの販売中。チケット販売の詳細は、公式サイト(<https://kyoto-nippon-festival.com/>)をご参照ください。

■インスタレーションチケット

梅苑「花の庭」（2月1日～5月24日）、史跡御土居のみみじ苑「青もみじ」（4月1日～5月24日）へご入場いただけます。風月殿「イマーシブシアター」（3月20日～5月24日）には、ご入場いただけません。入場券には茶菓子が付いております。当日、梅苑内の茶店にてお受け取りください。当日券は会場（北野天満宮）にてお買い求めいただけます。

券種	前売券	当日券
大人	¥2,800	¥3,000
小人	¥1,400	¥1,500

※小人料金は小学生（6歳～12歳）の方が対象

※中学生以上の方は大人料金

※障がい者手帳をお持ちの方は、会場（北野天満宮）にて本人

及び介護者1名適用の割引チケットが購入可能

※未就学児のお子様は無料

■インスタレーションチケット+イマーシブシアター鑑賞チケット

梅苑「花の庭」（2月1日～5月24日）、史跡御土居のみみじ苑「青もみじ」（4月1日～5月24日）、風月殿「イマーシブシアター」（3月20日～5月24日）の指定日時の公演にご入場いただけます。プレミアムチケットをご購入いただいた方は、一般入場に先んじて会場へお入りいただけるほか、特別演出のパフォーマンス鑑賞や、一部の登場人物とともに茶席を楽しむ限定体験をお楽しみいただけます。チケットは開場時間までイープラスにて、その後は会場受付にて当日券を販売します。（特設サイト：<https://hanayoi-no-daichakai.com/>）

イープラスでチケット発売中：<https://eplus.jp/sf/word/0000173156>

※チケットは公演開始の15分前までイープラスにて、その後は会場受付にて当日券を販売します。

※当日券は、イープラスでの販売価格+1,000円となります。

・平日

券種	前売券	当日券
プレミアム	¥15,000	¥16,000
一般	¥10,000	¥11,000

・土日祝日

券種	前売券	当日券
プレミアム	¥16,000	¥17,000
一般	¥11,000	¥12,000